

シイの森の生きものごよみ

春 3月～4月

黄緑(新芽) 黄(花)

茶(枯れ葉) 幼虫

新芽を食べる

増えた虫をエサに鳥がはん殖
 例 ルリカケス アマミヤマシギ
 アカヒゲ オーストンオオアカゲラ

蜜と花粉を目当てに昆虫が増える
 例 オオシマオトラフコガネ

濃い緑色をしていたスダジイの葉は、この頃に芽吹きが始まり、やがてその新枝には黄色い花が咲く。花はむせかえるような強烈な臭いを発してたくさんの昆虫を呼び込む。増えた虫をエサにする野鳥たちは、はん殖期を迎える。

5月中旬から始まる梅雨に備えて、地上に多くの葉を落とし、山の保水力を高め、多くの昆虫や土壌生物を育て、鳥の生態系の源になっている。

春の一本の枝
 スダジイは3月頃から落葉のシーズンを迎える。木の枝は、下から茶色(枯れ葉)→緑色(葉)→黄緑色(新芽)→黄色(花)と色を変え、枝から木へ森へとグラデーションが広がる。

春の花
 例 アマミエビネ…3月
 アマミセイシカ(小高木)…4月

梅雨 5月～6月

森は地上に厚く積もった落葉や土壌に十分な水を貯える。地上に貯えられた水は、梅雨明け後に動植物たちの生命の水となる。森の中は高温多湿となり、沢や溪流は水量を増す。

夏 7月～9月

約1ヶ月半続いた梅雨も終わり、亜熱帯性気候の夏の日差しが容赦なく降り注ぐ。また、この季節は台風が接近・上陸する。シイの木は台風から森の中の生き物を守るシールドの役割を果たす。

アカショウビン(夏鳥)はん殖期

豊富な水辺が多様なエサを提供

例 アカショウビンのエサ
 ワタセジネズミ
 パーパートカゲ
 リュウキュウカジガエル
 ツヤハナムグリ など

水辺ではん殖
 オットンガエル

た湿っている
 ハブ

水を増やす
 沢、溪流の水かさが増す

水を増やす
 水を増やす

水を増やす
 ミミズが増える

水を増やす
 イボイモリはん殖期

水を増やす
 バクテリア、微生物が増える

水を増やす
 ガが増える

水を増やす
 幼虫は新芽を食べる

水を増やす
 リュウキュウコノハズク

水を増やす
 ガヤセミなどをえさにはん殖、子育て

水を増やす
 アマミシカワガエル

水を増やす
 沢から木に登ってくる

水を増やす
 オオシマゼミ大合唱

台風から生き物を守るシールドの役割

水を増やす
 アマミシカワガエル

水を増やす
 リュウキュウコノハズク

水を増やす
 オオシマゼミ大合唱

秋 10月～12月

スダジイの枝先に多くの実がなり、季節は実りの秋となる。地上に落ちたシイの実、森にすむ生き物たちの重要な食料となる。シイの実を食べて栄養を補給する哺乳類ははん殖期に入る。

冬 1月～2月

秋からはん殖期に入った哺乳類にとって子育ての季節。

ケナガネズミはん殖期

アマミノクロウサギはん殖期

トゲネズミはん殖期

ケナガネズミの子供

着生ランの花が咲く

コゴメキノエラン

トゲネズミの子供

アマミノクロウサギは、授乳が終わると土で巣穴のフタをする。



世界自然遺産と奄美

"Amami"-toward Natural World Heritage Registration

